

竜の子 奨学生

TATSUNOKO NEWSLETTER

その夢は、きっと世界を変えていく。
The dream surely changes the world.



Contents



第46回交流会レポートより

- P.2 「現在の夢」、お礼の言葉
- P.3 第46回交流会レポート
- P.7 令和六年度新入生紹介
- P.10 竜の子近況報告
- P.14 SPECIAL REPORT I



火花パフォーマンス(ランカウイ島にて)

- P.15 SPECIAL REPORT II
- P.16 編集後記

第 33 号
July 2024



公益財団法人 竜の子財団

現在の夢



サワン・ジョシ
Sawan Joshi

ネパール出身で、14歳よりシタールを学び、97年にシタールとインド古典音楽の6年間のコース修了。98年ネパール全国古典楽器コンクールにて第1位。2004年東京藝術大学音楽研究科に入学し、ネパールでの北インド古典音楽の歴史について研究を始め、2010年に博士号取得。2013年より東京藝術大学で楽理科非常勤講師としてシタール奏法の指導に携わっている。また、数々のアーティストと共演しながら日本国内各地、台湾やフランスなどの舞台に出演し聴衆を魅了。2003年に「Swotanttra」と2014年に「Hot Spice」を発表。現在はそのかわり、日本各地で様々なジャンルの音楽との融合を試みた演奏活動、大学・公的機関での講演などを通じて日本・ネパールの文化交流の架け橋として活躍している。

ネパール出身のサワン・ジョシです。長年日本で留学生として過ごし、現在は音楽の講師、演奏者、研究者として活動しつつ、日本とネパールを行き来しています。かつては日本とネパールを行き来しながら音楽を通じた文化交流の橋渡しをすることが夢でしたが、時が経つにつれて新たな夢も湧き起こりました。また、価値観も少しずつ変化しており、年齢を重ねるごとに夢も変わっていくことを実感しています。お金持ちになりたい、立派な家や車を手に入れたい、世界を旅したいという願望は誰にでもあるかもしれませんが、それらは物質的な欲望に基づく自己中心的な夢に過ぎず、本当の夢はより大きな目標や価値観に基づいており、自己成長や社会貢献を含む深い意味を持っていると考えています。私のキャリアは音楽であり、音楽を通じてどのように成長し、どのような夢を持つようになったかについて少し語りたと思います。

学生時代は、音楽学で博士号を取得することが大きな夢でした。努力の末、2008年度に財団から2年間の奨学金を受け取り、そのおかげで研究や調査を進められ、3年後には東京芸術大学大学院博士後期課程音楽学を卒業し、博士号を取得することができました。博論は「ネパールでのヒンドゥスターニー古典音楽の導入と普及」で、ネパールにおける北インド古典音楽の歴史に新たな視点を提供することができました。その結果、ネパール人として初めて日本で音楽について学術的な研究を行い、多くの人々にネパールの音楽について理解してもらうための資料を作成するという大きな夢を実現しました。

2010年に学業を終え、音楽の講師、演奏者、研究者として社会に出ました。現在も、日本とネパールを行き来し多くの人々に自分の音楽を楽しんでもらうことは変わらない夢です。しかし、ネパールでは音楽教育が不足している現状があります。そのため、カトマンズで日本の音楽教育システムを参考にした音楽学校を設立し、子供たちや若者たちに音楽教育を提供し、豊かな社会の形成に貢献したいというのが現在の夢です。

ご寄付いただいた皆様へ

この度、竜の子財団の奨学生を代表して、寄付して下さった皆様へ心より感謝の意を表します。

私たちはそれぞれかなえたい夢を持ち、日本へ留学してきました。寄付者様や竜の子財団の皆様のご支援のおかげで、金銭的な心配をせずに学業や研究に専念することができました。また、交流会を通じて日本の社会や文化に触れる貴重な機会を得ることができ、非常に充実した留学生活を送ることができています。財団の交流や活動を通じて、私たちは異文化に対する視野を広げると共に、他の奨学生からも多くの刺激を受けています。

皆様のご支援を力に変えて、自らの夢を実現し、社会に貢献できるよう努力して参ります。最後に、皆様からの温かいご支援に改めて心より感謝申し上げます。

(令和6年度竜の子奨学生 東京工業大学 郭 錦表)

第46回交流会レポート

● 第17回卒業式 ●

令和6年3月22日（金）、東京・京王プラザホテル・高尾にて竜の子奨学生6名が竜の子財団を卒業する日を迎えました。卒業生は着物で入場し、秋元理事長からの式辞をいただきました。卒業生代表の挨拶で楊茹さんが寄付者および関係者の皆様へ心からの御礼を伝えました。

理事長挨拶 秋元 竜弥 理事長

皆さん、こんにちは、理事長の秋元です。この財団を作った経緯というのを説明したいと思います。二十年ぐらい前から日本に来る私費留学生のほとんどが日本の物価高により、アルバイトなどに時間を割かれて、学業に専念できず、自分の夢を諦めて母国に帰ってしまっていました。そういうことであれば、学業の援助ができればということではじめたのがこの竜の子財団です。ぜひ、皆さん、竜の子奨学生として学業に専念して、自分たちの目標そして夢を達成するようにしてください。

新しく竜の子奨学生になられた方々、おめでとう！それから卒業生、毎年恒例の着物を着た姿がとても素敵です。ぜひ写真をいっぱい撮って、母国のご両親に見せてあげてください。

卒業生の皆さんと一緒に交流会に参加したことは、本当に思い出に残っております。少し前後しますが、この竜の子財団の特色は奨学金をお渡しするだけではなくて、皆さんと一緒に年二回から三回、日本の伝統文化の体験や研修

旅行などの交流を図っていることです。今日この卒業式を迎えて、皆さんを本当に身近に感じています。また、すごく嬉しい思いもありますが、別れが悲しい気持ちもあります。卒業生の皆さんはこれからいろんなことがあると思いますが、ぜひ困難に打ち勝って、自分たちの夢と目標を追いかけて幸せになってください。本日はおめでとうございます！

最後に、毎年卒業生の皆さんに着物を提供してくださっている日本和装の方々に、この場を借りて御礼申し上げます。（それから財団初期の頃から、この贈呈式や卒業式の写真を撮っていただいている岡さんに、またこの場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございます！）

卒業生代表挨拶 楊 茹 ようじょ

秋元理事長をはじめ、応援していただいた皆様、こんばんは。私は中国出身で、竜の子財団に5年間所属してきた九州大学の楊茹（ようじょ）と申します。この場をお借りして卒業生の代表として皆様にお礼を申し上げたいと思い



式辞を述べる秋元理事長



卒業生を代表してスピーチする楊茹さん



ます。竜の子財団での5年間は、私にとって宝物のような日々でした。今日、卒業を迎えることになり、感謝の気持ちでいっぱいです。

財団の一員として、私は多くのことを学びました。それは、授業で学んだ知識や研究で得た結果以上のものでした。仲間との協力、そして、困難に立ち向かう勇気。これらは、私が財団での経験から得た貴重な宝物です。また、一緒にディズニーリゾートで二日間遊んだ経験、一緒に釣りに行った思い出、一緒にボーリングをしたこと、一緒に料理したことなど、皆様との経験は私の心に深く刻まれています。私は勝ち気な性格ではありますが、実は心が弱い部分もあり、泣き虫で、人に頼ることも多いです。研究や論文の投稿、将来への不安や自分への迷いなどに苦しむこともありましたが、先輩たちの助言や支えで乗り越え、成長することができました。

九州大学生としての誇りはもちろんですが、竜の子財団に所属してきたことが私の自信となりました。奨学生同士の交流や皆様の支援は私の成長に大きな影響を与えました。本当にありがとうございます。

卒業生の皆様、今後迷ったり初心を忘れることもあるかもしれませんが、「夢を持って世界を変えていく」という言葉を思い出しましょう。財団での経験を胸に、前進していきましょう！築いた絆は永遠に続くものです。

新入生の皆様、竜の子財団へようこそ！ここは温かい場所であり、仲間たちは素晴らしい人ばかりです。これから一緒に成長し、新たな挑戦に立ち向かいましょう。

最後に、これまでの支援に感謝し、これからも応援していただけることを願っています。皆様、本当にありがとうございました。

● 第18回贈呈式 ●

同日、京王プラザホテル・高尾にて第18回贈呈式が開催されました。第18期は7名の留学生たちが、新たに竜の子財団の一員として加わりました。ワナホンさんが新入生を代表して、感謝の気持ちと竜の子の一員としての決意について話しました。

新入生代表挨拶 ワナホン

皆さん、こんばんは。私はミャンマー出身で、立命館アジア太平洋大学の国際経営学部2年生、ワナホンです。新入生代表として授与していただく機会を得られ、深く感謝

しております。理事長をはじめ、竜の子財団の方々、財団を通じて私たちを支援してくださるの方々、来賓の皆様にご心より感謝を申し上げます。

過去2年間、日本での国際学生としての経験は、私の人



新入生を代表してスピーチするワナホンさん

格を多方面で成長させてくれました。ミャンマーでは、社会活動やボランティアプログラムに積極的に参加し、ネットワークを広げてきました。しかし、日本への移住は、私に経済的な問題をもたらし、3つのアルバイトの掛け持ちを余儀なくされました。今、竜の子奨学金のおかげで、社会的な集まりや地域交流プログラム、ボランティア活動に再び没頭できる本来の自分に戻ることができ、感謝しています。これらへの参加は私にとって非常に大切な活動であるだけでなく、いただいた奨学金の正しい使い道だと思います。

新しい学習環境への適応は挑戦ではありますが、無限の可能性も秘めています。私たちは、支え合い、共に成長していくことを約束します。竜の子奨学金は、私たちが夢や目標に向かって進む上で、重要な一歩となります。今日ここにいる全員が誇りに思えるような素晴らしい成果を達成することを目指します。

最後に、この機会を提供してくださった全ての方々、そして常に私たちを支えてくれる教師や先輩方に、再度深く感謝します。私たち新入生は、皆様の期待に応えるべく、最善を尽くします。本当にありがとうございました。

乾杯の挨拶 加藤理事

今日新たに竜の子財団の奨学生に入られた皆さん、そして卒業生の皆さん、本当におめでとうございます！また、先ほど新入生代表としてワナホンくんの挨拶や卒業生の楊茹さんの挨拶を聞くことができ、今日はとても思い出に残る一日だと思っています。竜の子財団は本当に学生の方同士も仲が良く、さっき理事長からもお話があった通

り、奨学金を渡すだけではなく、同時に竜の子財団に選ばれた皆さん同士での交流を大切にしています。卒業後もOGOB会を開催し繋がりを持って、お互いを応援していくという形になっています。新しく入った方もすぐに馴染めると思います。今日いい機会ですので、色んな方と交流をして、この祝賀会を楽しんでいただければと思います。では、今日は皆さん本当におめでとうございます！

閉会の挨拶 池田理事

皆さん、おめでとうございます！この時期になると、どんな新入生が入ってくるのかなと、ちょっとワクワクする部分もあり、あの子も卒業しちゃうのかという寂しさもあり、少し複雑な気分になります。これから勉強や研究、就職する方もいるので、仕事や大変なこともあると思いますが、竜の子財団で学んだことを胸に頑張っていただければと思います。これから勉強、研究、就職などの色々な困難に立ち向かう際には、何かありましたら、初心に帰って、親や援助してくれていた方、そして財団に感謝していただけると、苦境も乗り越えられるのではないかと思います。

最後に新入生の方々、次会うのは夏の交流会だと思います。夏の交流会は、加藤さんが楽しいことを考えてくれると思いますので、皆さん、期待して待っていてください。そして、卒業生の皆さんもこれから仕事が忙しくなって、結構色々大変なこともあると思いますが、数年後にはOGOB会がまたあると思います。皆さんは忙しくなると思いますが、もし可能であれば、時間を作ってOGOB会に来ていただくと本当に嬉しいです。よろしく願います。本日はおめでとうございます！



乾杯の挨拶をする加藤理事



閉会の挨拶をする池田理事



理事長と卒業生一同



卒業生一同



卒業生から加藤理事にも花束贈呈



都庁プロジェクションマッピングを見る奨学生



毎年、卒業生は日本和装ホールディングス株式会社のご支援により着物を着て参加しています



(担当：令和2年度竜の子奨学生 京都大学 鄒 可昕
令和6年度竜の子奨学生 立命館アジア太平洋大学 ワナホン)

令和六年度新入生紹介 「夢について」

今年度、7名の留学生が新たに竜の子奨学生に選ばれました。今回は、そんな新しい竜の子たちが描く夢についてお話を伺いました。彼らはそれぞれ異なる国籍、専攻、そして価値観を持っています。そんな多様な背景を持つ彼らが、どのような夢を持って日本へ留学してきたのか紹介いたします。



ヨウ カイバン
叶 楷文
(中国出身)
名古屋大学
環境学研究科
地球環境科学専攻
博士後期課程2年

私は大きな夢を持っているわけではありません。ただ、平穏な生活を大切に送りたいと思っています。もしさらなる夢があるとすれば、もっと自分に正直に生き、他の人の役に立つ人間になって、自分の価値を高めたいと思います。

コロナの時期、生活は不確実性に満ちていました。その時の私は中国にいるしかなく、日本に留学することができませんでした。オンラインで指導教員と連絡を取り、ビデオで授業やセミナーに参加するしかありませんでした。不安な三年間を過ごした後、私たちが

持っているすべては当然のことではなく、非常に幸運なことだと感じました。今の私は、生活を非常に大切にしたいと思っています。人と直接会って話す機会や、コンサートに行ったり、遊園地で遊んだりする機会を大切にしたいです。

さらに高い目標があるとすれば、それはもっと自分自身と向き合い、自分の感情や考え、弱点に正直になりたいということです。大学院という学校と社会の境界に立つ今、自分が無知であると感じています。専門知識だけでなく、生活の知恵ももっと学びたいです。そして、もっと大人らしく、積極的に生きたいと思っています。

最近、私は迷いの時期を過ごしており、自分に対する信頼が薄れ、時には疑うことさえあります。それでも、私ができるのは根気よく続けることだけだと思います。これは一生の修行かもしれませんが、ただ一つの願いは、夢を持って迷わず前に進むことです。



ジョ モヨウ
徐 萌陽
(中国出身)
九州大学
芸術工学府環境設計コース
修士1年

私の夢は、アジアの文化遺産を保護し、その価値を世界に広めることです。

私は文化遺産保護の研究に取り組んでいます。文化遺産については、西洋と東洋の間で「真正性」についての議論が続いており、その定義権は主に欧米にあります。欧米は有形文化遺産の保存を重視し、無形文化遺産を軽視する傾向がありますが、それは同等に重要だと思っています。例えば、妻籠宿のような事例では、建築様式を保存し、地域の祭りやエコロジーを守りながら独自のブランドを築き、

観光ビジネスの発展に貢献しています。これは持続可能な文化遺産保護のモデルです。

私の目標は、アジア地域の文化遺産を深く探求し、その保護に努めることです。文化と価値観と消費者の関係を理解し、持続可能な文化遺産保存の概念を世界に広めたいと考えています。また、カンボジア、マレーシア、インドネシアなどの発展途上国の文化遺産の保護・修復にも関わりたいです。日本で学んだデジタル技術を活用し、遺跡や寺院などの有形文化遺産を保存するとともに、祭りや伝統行事などの無形文化遺産の振興を目指します。これにより、現地の観光を促進し、雇用を増やし、地域経済を活性化させることができます。

アジアの文化的影響力を高めるためには、文化遺産の保護と活用が重要です。地域固有の文化遺産を理解し、その価値を世界に広めることが、アジアの文化的地位を向上させる鍵となります。私は、アジアの文化遺産が世界に正しく理解され、尊重されるよう努力していきたいと考えています。



バルタマン アンウロデ
Baltamang Anurodh
(ネパール出身)
立命館アジア太平洋大学
国際協力政策専攻
修士2年

私の夢は、アジア太平洋地域における観光開発のリーダーとなり、持続可能で回復力のある観光を推進することです。私は子どもの頃から旅行が大好きで、特にトレッキングが好きでした。旅行中に会った活気ある文化、素晴らしい風景、そして様々な体験は、私を常に驚かせてくれました。しかし、現在、世界中の多くの観光地、特にアジア太平洋地域は、危険にさらされています。私が子どもの頃にネパールで訪れたトレッキング地は、2015年の地震で壊滅的な被害を受け

ました。美しい山々に積もる雪は気候変動により溶けています。そして、私が大学生時代に訪れたボラカイ島やピビ島のような観光地は、生物多様性の回復のために一時的に島を閉鎖しなければなりません。

これらの問題は、観光業と天然資源に大きく依存して生計を立てているアジア太平洋地域の低所得コミュニティに多大な影響を及ぼします。

これらの課題を知ったことで、素晴らしい観光資源と天然資源を守りたいという私の情熱が高まりました。私の目標は、現在の世代と将来の世代の両方に私と同じように、その魅力を知ってもらい大切に思ってもらえることです。

私の夢は大きく、現時点では夢の実現には程遠いですが、持続可能で回復力のある観光業の実践、これらのかげのない資源の保護、そしてコミュニティの支援に精力的に取り組んでいきたいと思っています。

私の努力を通じて、アジア太平洋地域の観光業が回復力を持ち、環境や人々と調和して生きる未来を創りたいと考えています。



カク クンビョ
郭 錦表
(韓国出身)
東京工業大学
応用化学
博士後期課程3年

私の夢は、二酸化炭素の再利用技術を開発し、地球温暖化問題を解決するエンジニアになることです。毎年、地球の平均気温は上昇しており、その主な原因は温室効果ガスの排出です。この問題に少しでも貢献できるよう、エンジニアの道を選びました。

科学者ではなくエンジニアを目指す理由は、アカデミックな研究よりも実際に応用可能な技術を開発することに興味があるからです。理論に留まらず、具体的な技術として社会に役立つものを創出したいと思っています。

現在、私はプラズマを利用して二酸化炭素を一酸化炭素に変換する技術を開発しています。この技術が経済的に実現可能になれば、鉄鉱石の還元にも一酸化炭素を活用し、二酸化炭素排出量が多い製鉄産業にも適用可能です。最近では、一酸化炭素を原料としたカーボンナノ材料の合成も注目されています。将来的には、このカーボンナノ材料の合成に関する研究にも携わり、二酸化炭素から高付加価値の製品を生み出すことで、経済的に持続可能な二酸化炭素の再利用を目指したいです。二酸化炭素をプラズマで分解し、価値ある物質に変換することで、地球温暖化の進行を抑制し、未来の世代により良い環境を残すことができると信じています。この夢を実現するために、日々実験室で研究に励んでいます。

環境問題は一国だけの問題ではなく、全世界が協力して取り組むべき課題ですが、少なくとも、私の研究と努力が小さな一歩となり、未来の世代により良い環境を提供できることを願っています。



ワナ ホン
Wunna Hone
(ミャンマー出身)
立命館アジア太平洋大学
国際経営学部
学部2年生

将来を想像することは空中に城を建てるようなものですが、夢を見ることは成就への第一歩です。家族が多くの浮き沈みを経験してきたため、私は自分が創りたい未来と夢について常に意識してきました。夢について考える時、祖父が亡くなった直後に父とした会話を思い出します。私たち家族が思い出話に花を咲かせる中、父は祖父から受け継いだ言葉を共有しました。「自分の力で立てるのは良いことだ。家族があなたに頼れるのはもっと良い。しかし、周りの全ての人を支えることができるなら、あなたは最高だ。晴れた日に影を提供する大きな木のようにね」このアドバイスは私に深く響き、「周りの人々に平和とサポートを提供する、大きな木のような存在になる」という人生の目標を形作っています。

しかし、このような大きな目標を達成するには、相当の努力と戦略的なアプローチが必要です。「学ぶことが好き」という強みを持つ私にとって、広く探索し、できるだけ多くの知識とリソースを集めることが夢の一つです。大学や竜の子財団に在籍中に、有意義なパートナーシップを築き、ネットワークを広げることも夢の一つです。

最後に、世界は以前よりも暗く感じられ、日々色褪せていくように思えます。今の私の優先事項は賢く成長することではなく、できる限りの貢献をすることです。一日の終わりには、私たちは皆、愛と尊敬を求めています。私も例外ではありません。皆も同じように感じているのではないのでしょうか。



ニムラウィー ナッタパット
Nimrawee Nattapat
(タイ出身)
九州大学
電気電子工学専攻
修士1年

子供の頃から、私は常に技術に興味を持っていました。技術は魔法に最も近いものだと感じていました。過去には不可能だと思われていたことが、今日の世界では技術のおかげで可能になっています。私の夢は、技術を使って世界を改善し、社会の問題を解決することです。

特に、ロボティクスと自動車の分野に興味があります。これらの技術を活用して、安全性と効率性を向上させたいと考えています。例えば、自動運転車によって交通事故を減ら

し、より効率的な交通システムを実現することが目標です。さらに、電動自動車の普及を促進し、環境に優しい社会を作りたいです。電動自動車は、排出ガスを削減し、地球温暖化を防ぐ手助けをするため、私たちの未来にとって非常に重要です。

私の夢は、技術の力でより良い未来を創り出すことです。そのために、常に学び続け、創造力を駆使して新しい解決策を見つけ出し、実現していきたいです。技術は急速に進化しており、私たちが直面する課題も日々変化しています。だからこそ、柔軟な発想と強い意志を持って、挑戦を続けることが重要だと考えています。

将来的には、グローバルな視点で技術の進歩を推進し、世界中の人々の生活を向上させたいと思います。異なる文化や価値観を理解し、協力し合うことで、技術の力を最大限に引き出すことができると信じています。私の夢は、技術を通じて平和で豊かな社会を築くことです。その夢を実現するために、これからも努力を続けていきます。



クロー セラ
具世羅
(韓国出身)
東北大学
工学部
学部4年

私の好きな言葉は「belief (信ずる心)」です。私が持つ信念、又は座右の銘が、将来の方向性に大きな影響を与えると考えるからです。幼い頃から科学者になることを夢見てきました。いつも勉強をする時「なぜ」という質問をしながら探求することが好きなこともあり、白衣を着て研究する科学者の姿が格好良く見えたからです。当時は具体的にどんな職業や専攻を選ぶかは決めていませんでしたが、科学者になれば素晴らしい研究をすることができるという夢を抱き、勉強をしました。現在、白衣を着ることはありませんが、工

学部で研究をしているので、幼い頃からの夢に近づいていると感じています。将来も研究職に就いて、研究を続けたいと考えています。実際に研究をすることで、改めて自分が研究を好きだとより感じるようになり、研究をすることが楽しいと感じるようになりました。時々自分の進んでいる道が正しいか不安に感じることもありますが、自信を持つことを失わないよう努力しています。この春からお世話になっている竜の子財団は、不安が増す私にとって大きな安心感を与えてくれる存在です。交流会で夢を持つ人々と出会い、彼らとの対話を通じて、一緒に夢に向かって進んでいけることに感謝しています。この出会いを大切に、卒業後も繋がりをもち続けたいと思います。また、日本語の会話練習ができたことも喜ばしいです。しっかりと意志を持っている竜の子財団で出会った皆さんとの縁に感謝し、卒業後もこのような縁を大切にしていきたいです。

(担当：令和6年度竜の子奨学生 東京工業大学 郭 錦表)

竜の子近況報告



こけし体験

クー セラ
具世羅 (韓国)
東北大学

「卒論研究と就活を頑張っています！」

現在、学部卒業論文を執筆中で、忙しい毎日を送っています。卒業後は修士課程へ進学する予定で、研究室と自宅を往復する日々が続くと思います。健康を維持するため、最近は時々運動も行っています。また、研究室の同期が就職活動をしているため、私も就職活動を開始しました。学校で開催される就職支援イベントや相談にも積極的に参加しています。最後に、写真は自作のこけしです。制作には約1時間かかりました。



中国語授業の準備
に使われる教材

リュウ ソハン
劉楚帆 (中国)
筑波大学

「中国語講師になりました」

4月から浦和大学で中国語の授業を担当することになりました。最初は不安もありましたが、授業を重ねるごとに徐々に慣れ、今では落ち着いて臨めるようになってきました。

中国語には「教学相長」という言葉があり、これは教えることで自分自身も学べる、つまりアウトプットすればインプットにもつながる、という意味です。実際に教壇に立ち、この言葉の意味を実感しています。教師としてまだ未熟な点は多いですが、より良い授業ができるよう日々精進していきたいと考えています。



伊豆の海

シュウ インファー
周瑩樺 (台湾)
東京大学

「伊豆に行ってきました！」

学期が始まる前に、ドライブで伊豆に遊びに行きました。特に伊豆の南の方はエメラルドグリーンの海と白い砂浜が広がり、とても綺麗でした。海に入るには肌寒かったのが残念でしたので夏にまたリベンジしたいです！写真は伊豆の海です。

最近は授業もあまりないことから、部屋に籠って修論を書いています。たまに今日が何曜日か忘れて焦ります。学生生活の最後の一年なので、頑張りつつ楽しみたいと思います！



逗子海岸の花火

ヨウ ジャクヒ
楊若飛 (中国)
東京海洋大学

「夏はやっぱり花火大会が必見ですね！」

最近、博士の予備審査と論文の初稿を終え、ちょっとリラックスしています。

5月31日に友達と逗子海岸の花火大会に行きました。とても印象深い経験でした。花火大会は45分間続き、周りの人たちも感動していました。海上から三つの船で花火が打ち上げられ、海が明るくなりました。すごくきれいでした。

今回、私にとって三回目の花火大会でした。以前、横浜と熱海の花火大会にも行きましたが、今回の花火の方が色とりどりで、大きかったです。写真を撮ることが好きなので、たくさん撮りました。とても楽しかったです。



フェスで食べた
シューマイ4種の
盛り合わせ。

キム ヨンウ
金 栄牛 (韓国)
東京工業大学

「餃子フェスに行ってきました！」

ゴールデンウィークに、東京都世田谷区の駒沢オリンピック公園で開かれた「クラフト餃子フェス TOKYO 2024」に行ってきました。ちょうど天気も良かったですし、餃子で有名な全国の名店の餃子を食べ比べることができて、楽しかったです。小籠包、シューマイ、スープ餃子などいろんな餃子があって、どれも美味しかったです。調べてみたら2年前から毎年、全国の大都市で開かれていますので、皆さんも来年ぜひ！行ってみてください。



新しく購入したバスケットシューズ
(28.5cm)

カク クンピョ
郭 錦表 (韓国)
東京工業大学

「バスケットボールを始めました！」

現在、国際学会での発表に向けて準備を進めながら、研究室での生活を送っています。今回参加する学会はプラズマ分野で著名な学会で非常に楽しみにしております。

最近は大学での研究と自宅での休憩のみという単調な生活を送っていることに気づき、リフレッシュと健康管理を兼ねてバスケットボールを始めました！

バスケットボールはほぼ10年ぶりですが、最初は体が鈍く、思った通りに動けませんでした。楽しみながら継続していくうちに、少しずつ体力もついてきました。また、運動を通じてストレス発散できていて、健康状態が改善されていると感じています。

これからは運動を通じて心身のバランスを保ちながら研究にも専念し、より一層努力してまいります！



一番印象に残った
その瞬間

チョン ルイシヨン
庄 睿翔 (マレーシア)
東海大学

「モノクロフィルム」

最近、モノクロフィルムで写真を撮り始めました。

彩りのない、余計な飾りのない、ただ光と影で表現した写真に特別な味を感じます。見慣れた場所でも、モノクロが全く新しい景色を与えてくれます。一枚一枚を大切に、自分にとって大切な瞬間だけが残るとというのがフィルムの魅力だと思います。少し前に、半年かけてようやく1本を撮り切りました。データ化は自分で挑戦して、撮った後の作業も楽しくやっています。



川平湾の風景

セキ カンシン
戚 涵欽 (中国)
東京電機大学

「研究発表で石垣島に行ってきました」

学部を卒業し、忙しい大学院生活を送っています。今年の3月に自分の研究成果を発表するために、沖縄の石垣島に行ってきました。2泊3日の日程で、研究室の仲間と先生と一緒にに行ってきました。初日は移動と発表の準備、2日目は発表本番、最終日は観光と移動でした。初めての学会発表で緊張しましたが、自分の研究成果がちゃんと会場の人に伝わったようで良かったです。発表以外でも研究室の仲間とたくさん話して、親睦を深めることができました。写真は、最終日に観光した川平湾の風景です。



山の景色

ソウ チョウ
宋 兆 (中国)
一橋大学

「きれいな虹はいつも雨のあとに咲く」

6月に入って梅雨が始まり、うとうしい雨が続いています。私は最近山に行く度に雨に降られていますが、止んだ後に登頂して上から見る虹の景色は最高です。きっと、頑張った後には、私たちならではの虹が表れてきますので、皆様も嫌なことがあっても負けないでください。

このように私は相変わらず山に行っていて楽しんでます。郊外の景色はいつも癒してくれるので、たまに手元の仕事を置いて郊外に行ってみることをおすすめします。



ハンバーガーに
なった川川

ヨウ カイブン
叶 楷文 (中国)
名古屋大学

「猫が中国から日本にやって来ました」

最近、妻が猫を中国から日本に連れて来て、これから一緒に日本で暮らすことになりました。猫の名前は川川（チュアンチュアン）で、白とオレンジ色の猫ちゃんです。今年で9歳になりました。川川を日本に連れて来るために、9か月間準備をして、ついに日本に到着しました。川川はとても臆病なので、飛行機に無事乗れるかどうかずっと心配していましたが、無事我が家に到着して今やっと安心しています。

妻の努力と川川の勇気に感謝します。彼らのサポートがあるため、もっと頑張ることが出来ます！



天橋立に
行きました！

ソウ カシン
鄒 可昕 (中国)
京都大学

「とりあえず論文を書こう」

3月末に無事に内定をいただいて就活を終えました。それからの毎日は、論文の作成と投稿をしています。なかなか集中できない時もありますが、定期的な運動と十分な休息を取ることで、少しずつ作業を進めています。また、7月からいくつかの学会に参加する予定があるため、最近は発表の準備をしています。学生時代最後の年ですが、積極的に知識を吸収し、有意義な1年にしたいと思います。



新入生歓迎パーティー

ジョー モヨウ
徐 萌陽 (中国)
九州大学

「新入生歓迎パーティーの開催」

私はこの春に修士課程を始めたばかりで、外国人サポーターが主催する新入生歓迎パーティーの企画を担当しました。準備のために、サポーターの皆さんと何度もミーティングをしました。おかげさまで、パーティーは無事に開催されました。特に嬉しかったのは、宣伝活動の成果で今年は日本人の皆さんも積極的に参加してくれたことです。このイベントを通じて、多くの新しい仲間と出会い、一緒にゲームを楽しんだり、おしゃべりをしたりしました。今年はさらに研究を進めて、多くのイベントを企画していきたいと思っています。



作ったビーフ・ウェリントン

ニムラウィー ナッタパット
Nimrawee Nattapat (タイ)
九州大学

「ビーフ・ウェリントンを作ってみました！」

最近、研究でとても忙しくしています。この夏に行われる研究会議に応募するために、良い結果を出すべく毎日頑張っています。選考に通って、その研究会議に参加できることを願っています。

研究以外では、最近たくさん料理をしています。これまで作ったことのない新しい料理にも挑戦しました。これらの料理の中で、一番作って楽しかったのはビーフ・ウェリントンです。作るのにほぼ8時間かかりましたが、うまくできて味もとても美味しかったです！



幸せな日々

ワナ ホン
Wunna Hone (ミャンマー)
立命館アジア太平洋大学

「良い日」

今学期はクォーター制の授業をたくさん受けたので、試験などで忙しかったですが、第1クォーターが終わり、少し自由な時間ができました。最近、立命館アジア太平洋大学からのメールで学業成績優秀奨学金を受け取ったことを知りました。同時に、大学の入学事務所のアルバイトでチームリーダーに昇進しました。さらに、6月からは日本での実務経験を積むためにインターンシップを探し始めています。次の集まりで皆さんに会えるのを楽しみにしています。



友人たちと由布岳を登りました！

バルタマン アンウロデ
Baltamang Anurodh (ネパール)
立命館アジア太平洋大学

「お元気ですか！」

セメスターが始まり授業や論文準備など、忙しいですが、毎日を楽しんでいます。最近ではヨルダン、ソロモン諸島、キルギスタンからきた方と一緒にチームでクラスプロジェクトを行いました。国際色豊かな国々から来た方と友達になり、彼らの文化や国について学ぶことができました。大学院でこのような世界中の方と出会う機会があることに感謝し、立命館アジア太平洋大学に来て良かったと思います。

個人的なニュースとしては、最近日本の免許を取得しました。免許センターでの練習や教官の方との路上練習やテストはストレスでしたが、卒業前に九州ドライブ旅に行くことを楽しみにしています。

そして最後に、私の姉夫婦にかわいい女の子が誕生し、私は叔父さんになりました。9月に実家に帰って会うのがとっても楽しみです。

(担当：令和5年度竜の子奨学生 東京大学 周 瑩樺)

SPECIAL REPORT I

● 冬休はランカウイ島へ ●

今年の2月、生まれ育ったマレーシアへ帰省しました。今回の帰省では、高校時代の友人とマレーシアを代表する観光地であるランカウイ島（Pulau Langkawi）に行ってきました。マレーシア北西部にあるランカウイ島は、クアラルンプール国際空港から飛行機で約1時間のところにあります。マレーシア西海岸から約30km離れており、北へ6km進むとタイとの国境に接しています。現在、約9万4千人の人々がランカウイ島で暮らしています。この島はマレーシア政府によって「免税島」に指定されており、様々な商品が免税で購入できます。特にアルコールや香水などの嗜好品が安く、350ml缶ビールが70円ほどで購入できるなど、驚きの値段で販売されています。

ランカウイ島には、南国の島ならではの美しいビーチが数多く存在します。中でも、特に人気なのが2kmもの長い海岸線と、ビーチ沿いに並ぶバーやカフェが魅力的なチェナンビーチです。私たちは夕暮れ時、日の入りの美しさを見にチェナンビーチを訪れました。予定通り、何もせず真っ白な砂浜に寝転がりながら、空に広がる紫とオレンジが混じり合う壮大な景色に感動しました。日が暮れ、帰路につく直前、目の前で繰り上げられた火花パフォーマンスは、幻想的で美しかったです。

また、ランカウイ島から船に乗り、周辺の島々を巡る島めぐりツアーにも出かけました。海の上では、どこを見ても雁の姿が目に入りました。ランカウイ島には数多くの雁が生息しており、まさにこの島のシンボルとも言える存在です。興味深いことに、これらの雁は船に近づき、まるで船の音に惹かれているように見えますが、その理由は、観光客が餌をくれることを知っているからなのです。実際に、とり皮を海に投げ込むと、雁たちが一目散に飛び降りて、餌を競うように啄む様子が見られました。さらに、遠くには緑色の光が線状に海面に浮かんでいるのを見つけました。これは、実はイカ釣り漁船の光だったのです。緑色の光に誘われて、たくさんのイカが集まってくるのだと言われています。

島めぐりツアーの一環として、私たちは船で洞窟へと向かいました。自然豊かなランカウイ島には、数多くの洞窟が存在します。今回私たちが訪れたのは、コウモリの生息地として知られる洞窟でした。洞窟内は真っ暗で、独特な匂いが漂っていました。ガイドによると、この匂いはコウモリの群れが生息している証拠なのだそうです。懐中電灯で天井を照らすと、無数のコウモリが上から吊り下がって



チェナンビーチの日の入り



イカ釣り漁船が並んでいる



コウモリの群れ



ランカウイ島の道路

いる光景が目映りました。目の前に広がる圧倒的なコウモリの群れに、鳥肌が立ちました。

ランカウイ島の魅力は、美しい海だけではなく、島内に広がる豊かな自然と絶景にも私たちは魅了されました。ランカウイ島での数日間、私たちはレンタカーで島を巡りました。ランカウイ島での運転は特別な経験になりました。島の道路はほとんどが空いており、両脇には豊かな自然が広がっていました。このような景色は初めて見るもので、まるで知らない国にいるような感覚でした。そんな中、突然目の前に現れたのは、道路を横断する猿の群れです。彼らはまるで道の主のように、悠然と道路の中央を歩いていました。もちろん、運転中に猿を避けるのは必須です。

私は都会の喧騒を離れ、海と自然に包まれた島での暮らしに憧れています。都市部のような利便性は得られないかもしれませんが、その代わりに、ありのままの自然を存分に味わうことができます。日本にも数多くの島々が存在し、その魅力に惹かれています。現在、島旅行の計画を立てている最中ですが、訪れた際には、その感動を皆さんと共有したいと思います！

(担当：令和5年度竜の子奨学生 東海大学 庄 睿翔)

SPECIAL REPORT II

● 全面デジタル化している中国社会 ●

キャッシュレス化が進んでいることで、中国は「電子決済大国」と呼ばれています。概ね2014年頃から、AlipayやWechat Payを中心としたモバイル決済が急速に普及し始め、今日では中国社会における主流の支払い手段となっています。中国最初の電子決済サービスの一つであるAlipayは、当初は同社のショッピングサイト「Taobao」に付随するオンライン決済システムとして登場しましたが、サービス範囲を次第に拡大し、オンラインからオフラインの加盟店にまで広がっていきました。スマートフォンの普及と急速なインターネット発展の波に乗り、今やAlipayとWechat Payは単なる決済手段にとどまらず、ショッピング、飲食、交通、医療など、あらゆる生活場面でも活躍するツールとなっています。このキャッシュレス決済の普及を中心に、近年の中国社会がいかにデジタル化が進んでいるかをご紹介させていただきたいと思います。

昨年7月、3年ぶりに中国に帰国しました。故郷の景色は記憶していたものとあまり変わっていないように見えたのですが、1カ月の帰国生活を通して、生活のあらゆる場面でデジタル化の進展を実感することになりました。

まず電子決済の普及が目につきました。大学時代からAlipayやWechat Payは徐々に浸透し始めていましたが、今の広がりには遠く及びませんでした。ネットショッピングは言うまでもなく、実店舗でも、レストランやスーパーから市場、露店までほとんどの場所でキャッシュレス決済が可能になっていました。むしろ現金のみの店舗のほうが珍しいと言えるでしょう。

また日常の移動手段として利用する交通機関でも、AlipayやWechat Payが利用できます。公共交通機関では、アプリ内の「ミニプログラム」で表示されるQRコードで決済できます。iPhoneのApple Payに似た使い勝手です。タクシー配車サービスの「DiDi」などを利用する際も、別途アプリをダウンロードする必要はなく、AlipayまたはWechat内に組み込まれた配車機能から直接注文できます。移動中はGPSで位置を追跡し、到着時に自動で料金が引き落とされます。

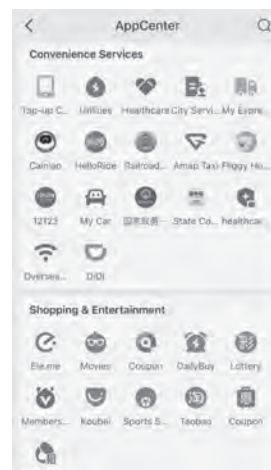
さらに航空券や高速鉄道（新幹線に似たような交通機関）のチケット、映画チケット、ホテル予約、そして光熱費の支払いなど、生活のほとんどすべてをAlipayやWechatで済ませることができます。スマートフォン1つあれば、日常生活の9割の場面をカバーできると言っても過言ではありません。ただその反面、AlipayやWechatが

使えないと、かなりの不便を強いられることになります。

そして顔認証技術の普及も目立ちました。私が最後に中国に帰国したのは2019年の夏、新型コロナウイルス流行の直前でした。当時はまだ顔認証技術の普及は進んでおらず、せいぜいAlipayやWechat Payでの「顔認証決済」くらいでした。しかし、昨年帰国時には、顔認証技術の活用範囲がかなり広がっていました。

まず実家の住宅地の出入りには顔認証が義務付けられていました。コロナ禍での人の行き来管理のため導入されたそうですが、流行が収束した今も続けられています。車の出入りでも「顔認証」が必要で、事前に登録した車両ナンバーで本人確認をします。そして国内の航空機や高速鉄道に乗る際も顔認証が求められます。日本では航空券や指定席特急券が必要ですが、中国では身分証明書に加え顔認証が義務付けられているのです。一部の空港では搭乗時に航空券すら不要で、顔認証だけで済むそうです。ホテル宿泊の際も同様に、従来は身分証明書の提示で済んでいましたが、現在はほとんどのホテルで顔認証が必須になっています。利用客が少ない時はまだいいのですが、混雑時の待ち時間は長くなり不便を感じます。顔認証機器の反応が良くないことも多く、認証に時間がかかるのも問題です。

こうした電子化の普及を実際に経験して、生活が便利になった部分もありますが、不便な面も少なくないことが分かりました。中国社会におけるデジタル化はもはや不可逆的な流れとなっていますが、果たしてデジタル化が万能なのかどうかは議論の余地があるのではないかと思います。



Alipayアプリ内に組み込まれている各種サービス



Wechatアプリ内の「ミニプログラム」

(担当：令和5年度竜の子奨学生 筑波大学 劉 楚帆)



委員長 東京工業大学 郭 錦表

竜の子奨学生第33号をお届けできることを大変光栄に思います。今回のテーマ「竜の子たちの夢」に焦点を当て、今年度の新入生及びOBさんの将来に向けた希望とビジョンを紹介することができました。

まず、素晴らしい記事を寄稿して下さった奨学生の皆さんに心より感謝申し上げます。彼らの情熱と努力は、この会報誌の魅力を一層引き立てています。また、編集委員会の皆さんの協力と献身的な努力のおかげで無事に会報誌の制作ができました。皆さんに深く感謝いたします。編集委員としての活動は初めてでしたが、編集のプロの方のご発言のおかげで無事に会報誌が完成いたしました。

最後に、竜の子奨学生たちが活動できるように支えていただいている皆様に感謝申し上げます。

委員 京都大学 郷 可昕

今回の会報誌で、第46回交流会のレポートの編集を担当させていただきました。最初に作成した原稿は日本語の不自然なところがいくつかありましたが、編集会議で皆さんから様々なアドバイスをいただき、修正してもらいました。皆さんに大変感謝しております。また、懇親会で皆さんと交流しながら美味しい韓国料理を食べました。自分にとってとても思い出に残る経験でした。次の交流会でまた皆さんにお会いできるのを楽しみにしております。

委員 筑波大学 劉 楚帆

会報誌の編集に参加するのは今回で2回目となりました。今回はSPECIAL REPORT IIを担当し、昨年の帰国時の体験をもとに中国社会のデジタル化について紹介しました。皆さんに楽しみながら読んでいただければ幸いです。

編集会議は全3回開催され、2回目は対面でした。前回の編集時は帰国のため対面会議に参加できず残念でしたが、今回は参加できてとてもうれしく思いました。会議後、韓国料理を楽しみながら皆さんとお話しできて、楽しい時間を過ごすことができました。次の交流会でまた皆さんにお会いできるのを楽しみにしております。

委員 東京大学 周 瑩樺

この度は近況報告の編集を担当いたしました。皆さんの近況についていち早く知ることができ、とても楽しく読ませていただきました。また、前回の会報誌作成は大学の授業と被っていたためほとんど編集会議に参加できなかったのですが、今回は編集会議に参加し会報誌が出来上がる過程に関わることができ、とても勉強になりましたし、嬉しかったです。夏休みに皆さんにお会いできるのを楽しみにしております！

委員 東海大学 庄 睿翔

今回、2回目の編集委員を務めさせていただきました。今回はSPECIAL REPORT Iを担当させていただいたのですが、前回同様貴重な経験となりました。編集委員の皆さんと内容について話し合っ、その過程で多くのことを学び、自分自身も成長できたと感じています。会議後には、皆さんとご飯に行く機会もあり、仲良くなれて嬉しかったです。今回の経験を踏まえて、将来の仕事でも活かせるようにしていきたいと思います。

委員 立命館アジア太平洋大学 ワナホン

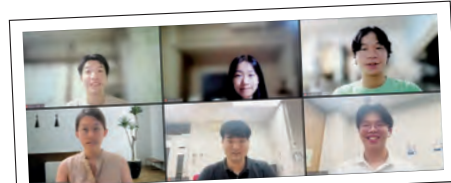
今回、私は理事長のスピーチと代表の挨拶文の編集を担当しました。会報誌の編集は初めてなので、わからないことがたくさんありました。しかし、他のメンバーやプロの編集者、そして竜の子財団の皆さんのおかげで、たくさん貴重な経験を得ることができました。この機会と、皆さんからのすべての助けに感謝しています。この記事を読んでいる皆さんは、会報誌を読み終えたところだと思いますが、楽しんでいただけたでしょうか。ありがとうございました。



第一回編集会議



第二回編集会議



第三回編集会議



「その夢はきっと世界を変えていく」

作詞：竜の子奨学生

作曲：班 文林（平成21年竜の子奨学生）

夢 希望をかなえる為 僕たちは生きている
その夢はきっと世界を変えていく 平和のため
いろんな事があるけれども どんなときでも

仲間とともに乗り越えて 竜の子の誇りを胸に
夢 希望をかなえる為 みんなは生きている
その夢はきっと世界を変えていく かならず